MINATO TOKYO

Bulletin みなとユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY／MINATO UNESCO ASSN. 16-3,SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004／MITSUKO TAKAI PRES.
発行所／港ユネスコ協会　〒105-0004　東京都港区新橋3-16-3　TEL・FAX　03（3434）2233　発行人／高井光子

2014 年 12 月 1 日発行　第 138 号

目　次

P1　巻頭言「ユネスコ精神と『持続可能な社会』の構築」木曽功氏	P18-21　MUA サロン「鳥の目、虫の目で見る世界」佐藤修平さん
P2-6　講演会「これからの世界と日本」榊原英資氏	P5-21　みなと区民まつり
P7-17 UNESCO ユースフォーラム in みなと 2014	P22　事務局便り ／ 編集後記

ユネスコ精神と「持続可能な社会」の構築

港ユネスコ協会相談役　木曽　功

ユネスコのミッションは、世界平和の維持とその基礎となる教育、文化、科学等の普及であるが、このことと「持続可能な社会」の構築という課題について考えてみたい。

私が、七年前、日本ユネスコ国内委員会の事務総長になった時、ユネスコ活動の活性化をどう図っていくのかという課題が、さかんに議論されていた。各地のユネスコ協会のメンバーの高齢化と、若いメンバーの参加が減ってくるという事態にどのように対処すべきなのか？　実際に、小学校・中学校等で子ども達と話しをしてみれば分かるが、残念ながら今の子ども達にとって、平和は「あたり前のこと」であり、平和の尊さは、抽象的かつ「何か遠い価値」でしかないと思われる。

世界で、いまだに紛争が続いているが、テレビ等で見る「遠い世界」のことと考えているようである。

一方で、気候温暖化の問題をはじめ、地球環境の悪化に関しては、非常に関心をもっていることが分かる。

ユネスコが取り組んでいる「ESD」（持続的開発のための教育）が、もっと日本の教育現場で推進される可能性があるのではないかと考えた。

そして、この切り口でユネスコ精神と活動の活性化が図れるのではないかと考え、ユネスコ・スクール 500 校計画と、そのユネスコ・スクールが、「ESD」（持続的開発のための教育）の地域の拠点として活動することを期待した。

現在、我が国のユネスコ・スクールは、800 校を越え、増加中である。

私は、世界の「平和」を維持するには、地球社会が「持続可能な社会」となることが大前提と考えている。方向性は同一であり、「ESD」が新しいユネスコ活動の一つの柱になることを期待している。

（内閣官房参与　前ユネスコ代表部大使）

2014 年度　第 2 回国際理解講演会　　（港区補助金事業）

日時　　2014 年 9 月 16 日　18：30～20：30
会場　　港区立麻布区民センター　ホール

テーマ　「これからの世界と日本」

講　師　　榊原　英資（さかきばら　えいすけ）先生

青山学院大学教授

講師プロフィール

1965 年に大蔵省に入省。ミシガン大学に留学し、経済学博士号取得。
1997 年に大蔵省での国際政策のトップである財務官に就任、
「ミスター円」と呼ばれる。
その後、慶応義塾大学、早稲田大学を経て、2010 年 4 月から現職。
近著：『鎖国シンドローム』(集英社)
『安倍政権でこうなる！日本経済』(アスコム)、
『逆説・明治維新　書き換えられた近代史』（日本文芸社）他。

ご講演の内容

現在の世界の状況

世界は大きな曲り角に来ている。シリアやイラクなどで、イスラム国は相当暴れているし、ウクライナ、タイ、南シナ海での中国の行為など、世界中に局部的、局地的な争いや戦闘が増えている。しかし、それらに対して、アメリカは自軍を外国に派遣しない方針を取っている。これは、アメリカが内向きになったというか、最近までアメリカがスーパーパワーとして担ってきた、世界の警察としての機能を減らしつつあるといえる。アメリカはその減らした分を、日本など同盟国に肩代わりしてもらいたいという意向を示している。

そういう流れの中で、安倍政権は集団的自衛権を閣議決定で決めた。これについては、いろいろな意見があるが、私は憲法違反ではないかと思っている。自衛隊が海外に行って闘うことを容認するというのは、日本の国防政策の大きな変更であるから、もう少し幅広く世論に訴えてから決定すべきであったと思う。

経済の面においても、日本はじめ先進国は曲り角に来ている。先進国の経済成長率は軒並に低下している。(昨年の成長率は日本 1.5%前後、イギリスは 2%を下回り、ヨーロッパ大陸諸国は 1%を下回っている。）このことからも、先進国の成長の時代は終わったと言えるのではないか。

日本では「デフレだ」「デフレ脱却」とよく言われている。しかし、他の先進国もデフレ、あるいは、ディスインフレーション、つまりインフレ率は低下している。かつて先進国でも 5%とか 6%のインフレ率が普通だったけれど、昨年の物価上昇率は、日本は 0.4%、アメリカやイギリスは 2%前後、ドイツやフランスでも 1%前後である。この面から見ても、先進国は軒並に、成長の時代は終わり、成熟期に入っていると言えよう。

日本の高度成長は 1955 年から 1973－74 年の間で、成長率は 9%だった。その後の 15－16 年間は安定成長期で 4.2%、そして、90 年代からは 1%を切っている。
このことから、90 年代から 2000 年代の 10～20 年間を「失われた 10 年」「失われた 20 年」と言う人がいるが、私はそうは思っていない。この間、日本経済が大きく疲弊したわけでないし、むしろ、今は成熟段階に入ったのだと考えている。日本人 1 人当たりの GDP は 4 万ドル近くあり、大国の中では第 2 位である。人口は減っている。だから、中・長期的に見れば、1%で十分であると考えるべきではないかと私は考えている。

今後重要なのは、成長政策でなく、成熟政策である。つまり、日本経済は成熟したのだとはっきり意識し、その中でいかに「生活の質」を高めるかに注力すべきである。もちろん、個別の企業としては成長したいという願

望を持つのは当然であるし、海外に出ていくなど、やり方によって高い成長を達成することは可能である。
　しかし、日本全体として考えるならば、これからも高度成長を望み、デフレ脱却をはかろうとすることは、逆に、バブルを生み出すことになりかねない。

　エコノミスト水野和夫氏は、「世界にはもう開発すべきフロンティアが無くなった。16 世紀半ばから始まった資本主義経済あるいは近代資本主義は終焉した。21 世紀に入って新しい局面が始まっている。つまり、世界の先進国経済は新しい『ポスト近代』に入ったのだ。」と言っている。

　その一方、新興市場国である中国、インド、インドネシアなどのアジア諸国、アラブ諸国、アフリカ諸国は、今後も高い成長を遂げる可能性は十分ある。中国と今後の成長という意味で注目されているインドを見てみよう。

中国　1970 年から 2010 年頃までは平均 10%で経済成長してきた。しかし、中国政府が「これからは 7%を目指す」と言っているように、2012－13 年からは安定成長期に移行している。その上、そろそろ人口が減る局面に入り、老齢化が進む。「高度成長」というものは社会のすべての欠点を隠すけれど、成長が安定してくると、いろいろな問題、例えば格差問題などが噴出してくる可能性がある。中国のこれからの問題は、安定期に順調に移行できるかどうかであろう。

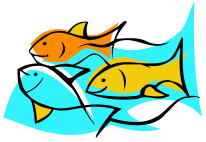
インド　現在人口は 12 億数千万人で、中国より約 1 億人位少ない。が、あと 10 年経つと、おそらく中国の人口を抜く可能性がある。インドは世界の大国の中で一番人口増加率が高い。というのは若年層が多く、現在 25 歳以下が 50%を占めていて、2050 年には 17 億人前後となると推測される。（この時中国の人口は 13 億人を切っていると思われる。）
　現在の GDP はまだ中国や日本の約 3 分の 1 位と低いので、伸びる余地がある。現在、中産階級は 7000 万～8000 万人ほどで、全人口の 5%～6%であるが、10 年後には 3 億～4 億人となるだろうと言われている。
　最近インドを訪れると、大変調子が良く活性化しているのを感じる。それは、昨年、政権が交替し、中央銀行の総裁が交替し、国として経済成長に力を入れ、しかもそれが順調に進んでいるからである。日本企業も大きな関心を寄せている。

日本について

　先進国としての日本は、成熟社会、成熟経済の国であると認識し、これからは、成熟政策、成熟戦略を進めることが必要であろう。成熟社会としてのキー・コンセプト（鍵となる概念）は、**環境・安全・健康**の 3 つ。
　このいずれの面において日本は世界のトップランナーであると言える。

環境　温帯という恵まれた気候地域に位置し、森林率（国土の中で森林の占める率）は 68%で、フィンランドに次いで世界第 2 位である。ヨーロッパの国々は森を切り拓いて、牧畜のための牧場やパンのための小麦畑にしてきた。しかし日本は「森は神の住む場所」として、歴史を通して森林を大切に守り、維持し続けてきた。雨が多く、森林には豊かな川が流れ、森と水、森と川の国と言えるように、環境に良い影響をもたらしている。

　日本の近海は世界で最も豊穣な海であり、28,000 種もの魚が獲れる。長年、魚を主なタンパク源としてきた日本人は極めて健康的でもある。これだけ多くの魚を四季を通して食することが可能だということは、人々が海を守り、森を維持してきたことに繋がり、これまで、優れた環境を維持してきたのである。



安全　世界で最も安全な国であると言われる。OECD の統計による犯罪率（1 年間に何らかの犯罪に巻き込まれる人の、人口に対する割合）は 10%以下で、スペインと並んで低い。（アメリカやイギリスは 20%前後。）

　安全であるということは、日本が長い間平和を維持してきた歴史に負っている。明治以前に行った対外国戦争は、663 年の白村江の戦い、蒙古来襲、豊臣秀吉の朝鮮出兵の 3 回のみである。また、1 度も他国に侵略されたことのないという世界にも稀な国である。ヨーロッパ諸国はお互いに侵略を繰り返したり、戦いを繰り返したりしてきた。イギリスは、日本と同じように大陸の近くに位置する島国であるが、何回も侵略されてきた歴史がある。それらの結果として、今も異なった民族の人々が 4 つの地域に分かれて住んでいる。同じような島国である

イギリスと日本のこの歴史の差は、泳いで渡れる程のドーバー海峡と、荒々しい玄界灘の違いによっているところも少なくない。日本は荒ぶる玄界灘によって外からの侵略を免れてきたのである。

さらに、内乱も少なく、内乱の時期も短かった。平安時代の 360 年と江戸時代の 260 年は、全く内乱もない、平和な時期だった。合わせて 600～700 年にわたる平和な時期を近代まで維持した国は日本以外には見当たらない。これは日本の歴史の大きな特徴であるが、このことが日本を非常に安全な国にするのに寄与している。

明治の初めに、旅行家イザベラ・バードというイギリス女性が、3 か月間 1 人で馬に乗って東北地方を旅したが、その時の日記に「日本はとても安全で、少しも危ない目に遭わなかったが、イギリスではあり得ないことだ。人々は大変友好的であった。」と記している。この安全は江戸時代から平和を維持してきたからこそのものである。

近頃、江戸時代がいろいろな面で再評価されている。

かつて歴史の本に、「江戸時代の農村は非常に貧しかった」と書かれた時期があったが、近頃の分析では、「江戸時代の農村は豊かであった」と言われている。また、権力者が村を治めるのではなく、村方三役という人たちが村を取り仕切るという分権的なやり方で村が形作られていた。

また、江戸時代の文化は庶民文化が中心だった、つまり、歌舞伎、相撲、浮世絵、草紙などが庶民のものであったことからも、町民も農民も豊かだったと言える。

歴史家の分析によると、「江戸時代は分権国家だった」という。武士は支配階級であったが、必ずしも豊かではなかった。エリートである武士は土地を持っていなかった。中国、インド、欧米では、支配者は必ず土地を持っており、そこから上がるものは支配者が取っていた。しかし、日本で土地を持っていたのは農民であり、豊かなのは豪農や豪商であった。武士は土地を持たず、生産手段を持たず、俸給を貰っていたのだから、いわば今のサラリーマンである。そういう武士がトップに立つということは、分権的な社会であり、平等な社会であったと言える。江戸時代、幕府が持っていたのはせいぜい 400 万石位で、全国の行政権をすべて握っていたのではなく、地方は大名がそれぞれの地域の行政を行うという、地方分権制度であった。

外国人で江戸時代について分析している学者が、「江戸時代は日本文化の完成形である。庶民が大変豊かであり、支配者である武士と庶民の生活にはそれほど大きな差がなかった。富が偏っていない。皆が貧乏ではない。」と言っている。

明治維新から昭和 20 年の敗戦までの期間

この期間は日本の歴史の中では異常な時期であったと思っている。この間、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、第二次世界大戦という、4 つの大きな戦争を体験した。戦争が多かっただけでなく、天皇についても歴史上、異常で特殊な存在になったと言える。明治に至るまで、天皇は権威の象徴であるが、権力は他の人が握っていた。天皇は権力を持たないから、倒されなかったとも言える。

そういう天皇が明治維新によって、明治憲法で、とてつもなく大きな支配者のように謳われ、祀り上げられ、しかも軍隊の支配権も与えられた。このことが軍隊の暴走につながる一つのきっかけになった。

明治の初めの時期、アジアの国々が次々に植民地化される中で、日本は富国強兵政策を取らざるを得なかった。アジアで植民地化されなかったのは、タイと日本だけであった。これは、一つには地理的要因もあるが、強兵政策を取ったことに意義があったのだと思う。そして、日露戦争に勝った。極東の小国が大国ロシアに勝ったことに世界は驚愕したが、あれはアメリカの仲介によって 1 年で終わったから勝つことができたと言われている。

このように、日本の軍国化は明治維新の時から運命づけられた。明治と戦前の昭和は連続しているし、憲法が変わったわけではないし、政治が大きく変わったわけでもない。昭和 20 年の第二次世界大戦の敗戦というものは、明治に始まった国家の必然的な結末であったのだと思う。

異常な期間を経て、戦後の日本は占領の下にかなりアメリカ化されていった。しかし、そろそろ、また江戸時代の、本来の日本に戻る時期に来ているのではないだろうか。平安時代から続く平和国家としての日本。日本は平和の DNA を持っているのだから、それを維持しなければならないのだときっちりと認識する必要がある。

健康　日本人の平均寿命は世界一長く、男女合わせると 83 歳である。また、世界の国々の肥満率の統計によると、日本人の肥満率は 3%であり、先進国の中では一番低い。つまり、世界で一番健康なのだと言える。その理由の一つは食事に由来する。魚と大豆が中心の食事は健康に良い。今、寿司が世界的にブームになっているが、そのキーワードは健康であり、日本食は身体に良いと世界中で認められつつある。

以上お話ししたように、日本は、成熟国家として、環境、安全、健康などの面で優れているということを認識することが大切である。もう一つ、低成長、低インフレ、あるいは利子が低いということは、日本だけでなく、先進国共通の現象であると考えるべきである。ゼロ成長、あるいは成熟の時代の中で、1 人当たりの GDP を 5 万ドル近くを持つ、日本のこの豊かさをどのように維持し、エンジョイし、「生活の質」を高めるかを考えるべき局面に入っていると思う。（了）

≪会場との質疑応答≫

30 分以上を質疑応答の時間に取って下さり、「講演内容に関係しない質問でも良いですよ」とおっしゃって下さったのを受けて、次々と質問が出て来ました。要約してお伝えします。

質問　為替レートについてお教え下さい。これから経常収支はどうなっていくのでしょうか。

答え　為替レートから言うと、今の状況は、円安というより、ドル高である。日本経済が弱いから円安になっているのではなく、アメリカ経済が順調に推移しているからドル高になっている。

今では、日本にとって円安のメリットは殆どなくなっている。かつては円安になると輸出が増えるというメリットがあった。が、現在では日本の大企業、中企業は海外での生産比率が高くなっているので、円安になっても輸出が増えない。過去と構造が変わってきているので、日本にとっては、むしろ円高の方が、極端に高くならない限り、プラスになる。日本は食料やエネルギーなどを輸入に頼っているのだから、円安だと価格が高くなる。

そろそろ日本でも、「強い円は日本の国益である」と考えるべき時期に来ている。つまり、通貨はその国の強さを、ある意味で、象徴しているのである。

かつて、私が国際金融局長であった 1995 年、極端な円高になって苦しんだことがあった。当時 80 円を切ったということは、今でいうと 60 円台位に相当したのであり、日本の大企業が皆悲鳴を上げた。そこでアメリカと交渉しながら 100 円まで戻したが、あの時はそうすることが必要だと考えたからであった。

しかし、現在において、全体のバランスを考えると、極端にならない限り、日本にとっては円高の方が望ましいと考えている。円安が大きなメリットがあるという発想から、そろそろ離脱するべきだと思う。

質問　日本の背負っている借金は莫大です。この借金を返すにはどうすればいいのでしょうか。

答え　1000 兆円という日本の借金は大きいが、日本の個人の金融資産は 1400 兆円である。日本の国債の 92%は日本人が持っており、恐らく、5～6%は外国政府が外貨準備として持っている。だから、今のところ問題はないと思う。しかし、長期的には、財政再建をしなければならい。国債の量をどんどん増やさないようにするには、税金を上げることである。そこで、消費税が 8%になったのである。恐らく来年には 10%になるだろう。

ただし、消費税を 1%上げても、収入は 3 兆円位しか増えない。財政赤字を埋めるためには、日本の消費税率は、いずれ 20%か、25%にしなければならない。ヨーロッパでは 20%の税率であるから、10 年かけてヨーロッパレベルまで上げること、つまり、私は消費税を 20%まで上げることは不可避であると思っている。

毎年、40 兆円の財政赤字を垂れ流すわけにはいかない。歳出はすでに合理化されているので、あまり切るところがない。今後老齢化が進むので、全体の 50%以上を占めている社会保障（年金や医療）の歳出は増えることがあっても減ることがない。だから増税するしかない。しかし、法人税は国際的基準から見ても下げる必要がある。だから、今後 10 年の間に消費税を 20%まで持って行き、財政赤字を削減することが必要だと考える。

質問　江戸時代に、本来の日本に、戻るべきだというご意見には賛同します。問題は、今、日本はその方向に向かっているのかどうかだと思いますが。

答え　今、防災とオリンピックということで、公共事業がどんどん増えている。政府が公共事業に依存し始めたことは問題ではないかと思う。今更、どんどんビルを建て、公共事業を増やしてまでも、成長率を高める必

要がないのではないか。オリンピックはちょっと違った色彩を持つものに、例えば、田園都市東京、田園都市日本、などを演出してはどうだろうか。成熟戦略にギアを切り替えて、日本がトップを走っている「環境、安全、健康」の面をどうやって維持するかにシフトすべきでないかと思っている。

質問　インドはこれから大きな存在になってくると伺いました。人口の面だけでなく、英語を話すことも大きいと思います。日本も英語を話すグローバルな人材を育てる必要があるのではないでしょうか。

答え　インド人の中で英語を話すのは人口の約 20～25%である。もちろん、インテリや上層の人たちは英語を話し、その人たちが中心に動いていることは事実である。日本は多くの強味をもっているが、弱味の 1 つは英語力が弱いということである。これは、恐らく、これまでの英語教育が悪かったのだろうから、英語教育のやり方を変え、日本人全体の英語力や国際言語力を高めることが大事だと思う。

日本は歴史上ずっと、受信することが（初めは中国から、明治以降は欧米から）上手かったが、発信が下手であった。そろそろ日本は英語などの国際言語力を高め、皆が発信する能力を高める時期に来ている。先頭を走っている成熟国家として、日本の良いところを外国に向かって発信していかなければならない。

質問　インドのカースト制度は企業活動に障害になりませんか？

答え　現在のインドの都会において全く問題になることはないし、都会の人は制度の存在さえ意識していない。

質問　日本の豊かな森林の維持方法や活用方法についてお教え下さい。

答え　日本の林業については、林野特別会計があり、一般会計から林野保全のために補助していない。折角守ってきた森林なのに、現在では手入れが十分に行われておらず、特に国有林は間伐もされず、放ったらかしにされている。ここにはかなりのお金を一般会計から入れて、森や林を保護し、維持していくべきだと思う。

質問　TPP についての先生のお考えをお教え下さい。

答え　安倍政権は TPP に乗っかる政策を取っているが、私はかなり批判的である。関税をゼロにするというが、既に日本の関税は十分に低い。米は例外だが、これらを更にゼロに近づけることは余り意味がない。第一、米を例外品目から外すことは無理である。日本にとって米は非常に重要な農産物であるから、これをゼロにするようなことがあれば、農家はすべておかしくなる。農村のために、やるべきではないと思う。

アメリカが要求しているのは、制度のアメリカ化である。アメリカ化は良い部分もあるが、譲ってはいけない部分、日本的な制度もある。例えば、「ゆうちょ銀行」とか「簡保保険」は離島にも過疎地にも存在して重要な役割を持っているので、他の民間金融機関と同じようにするのは望ましくない。また、もう一つの例として、地方の建設会社に地方の公共事業を優先的に行えるように優遇制度を設けている。地方の建設会社は何十万という単位で存在していて、地域の経済を支えている。この優遇制度を取り止めるようなことになれば、アメリカや日本のゼネコンに負けて、地方の建設会社はバタバタと倒れてしまう。地方創生、地方活性化というならば、地方で中心的な働きをしている建設会社を大事にすることは重要なことである。

その他にもアメリカ的なやり方をするようにと、いろいろなことを言っている。これは、むしろアメリカやオーストラリアがこれからの成長地域であるアジアに乗り込んで行くために主張しているのである。日本はすでに、アジアの重要なプレイヤーであるから、今更、TPP に乗る必要はない。中国は日本の最大のパートナーであるし、東南アジアと日本の関係は深いものがあるので、今のままで十分である。中国も韓国も TPP には乗っていない。

日本は積極的に TPP を推進する必要はないと思っている。

――-――　【質疑応答終了】――――――

≪感想≫

講師の幅広い分野にわたった、熱意のこもったお話しに、聴衆は引き込まれ、聞き入っていました。高度な難しい内容にもかかわらず、経済に疎い私どもにもよく理解できるように、理路整然と明快にお話し下さいました。

これからの日本の針路に、明るい希望と自信を与えていただいたように思います。心から感謝申し上げます。

担当：国際学術文化委員会　　記録まとめ：吉原浩昌（ユース活動委員会副委員長）
：高井光子（会長）
写真：坂下妥子（国際学術文化委員会委員）

主催：港ユネスコ協会　　港区補助事業
後援：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
留学生派遣協力：いっくら国際文化交流会、宇都宮ユネスコ協会
実行委員：港ユネスコ協会ユース活動委員会、慶応大学ユネスコクラブ
玉川大学ユネスコクラブ、新宿ユネスコ協会青年部

UNESCO・ユース・フォーラム in みなと 2014

～つながり始める僕らの New World～

日時：2014 年 10 月 4 日(土)　13：00～17：30
会場：港区立男女平等参画センター（リーブラ）ホール

13：00　開会　　午後 1 時、開始

総合司会：佐藤修平　（港ユネスコ協会ユース活動委員長　中央大学法学部法律学科 4 年）
：吉原浩昌　（港ユネスコ協会ユース活動副委員長　法政大学法学部国際政治学科 2 年）

総合司会者から、UNESCO ユース・フォーラムの内容と時間配分と、実行委員会についての説明がありました。4 時間 30 分にわたる長丁場でしたが、皆さんの協力のもと、若々しい楽しい雰囲気の内に、スムーズに進みました。

プログラムと予定時間

オープニング	13：00～	主催者挨拶、協力者挨拶
第 1 部	13：10～	留学生による母国紹介（4 か国、各 10 分）
第 2 部	14：10～	留学生 8 名によるパネル・トーク　「日本と私、そして未来へ」
第 3 部	15：30～	フロアーとパネリストとの会話
第 4 部	16：10～	皆さんで歌いましょう！
第５部	16：30～	交流を楽しもう！
エンディング	17：20～	閉会　17：30

主催者の挨拶　髙井光子会長

大勢の皆様のご協力のもとに開催できますことを、大変嬉しく思います。
日本には大勢の留学生が来られています。外国への窓口とも言える留学生の方々と、日本人、特に若い方々が、直接、交流する機会をつくりたいと考え、ユース・フォーラムを計画しました。しかし、留学生の方々と日常的に親しい交流をしていない私どもにとって、容易なことではないとわかりました。
そこで、栃木県・宇都宮市において、長年、留学生のお世話をされている「いっくら国際文化交流会」の長門芳子会長にご協力を仰ぎ、宇都宮に住む留学生の皆さんに東京に来ていただく、つまり、東京と地方都市とのコラボレーションの形をとりながら、2010 年からユース・フォーラムを始めました。
今回は、東京側として、都内のユネスコ協会・大学ユネスコクラブで活動をされている大学生の皆さんに、企画段階からご協力いただいています。港ユネスコ協会ユース活動委員会、玉川大学ユネスコクラブ、慶応義塾大学ユネスコクラブ、新宿ユネスコ協会の大学生の皆さん、ご協力有難うございます。
留学生の皆様、遠くからご参加いただき、心からお礼申し上げます。今日は、国境を越え、地域を越え、組織を越え、年代を越えて、楽しい交流の場、素晴らしい相互理解の場となりますように願っております。

協力者のことば　長門芳子港ユネスコ協会理事。　いっくら国際文化交流協会・宇都宮ユネスコ協会会長

本日、宇都宮に住む留学生をご招待いただき有難うございます。留学生のお母さん役を 32 年続けています。
東京で、平和の心を青年ユネスコ活動としてつなげていきたいという会長の熱い申出を受けたのが 2010 年で、今回で 4 回目となります。地方で学ぶ留学生たちは、なかなか東京に出て来る機会がありません。留学生たちは東京・港区で、母国紹介をできること、また、どんなパネル・トークが

できるのかとワクワクしながら、ベストメンバーを揃えてやって参りました。今回、東京の多くの大学の学生さんたちが実行委員として、協力しながら進めてこられましたことに敬意を表したいと思います。

皆様の心の中に、ユネスコ精神の「平和のとりで」を築くことができますよう、そして「新たな、良い出会いの場」となりますことを願っております。

13：15　第1部　留学生による、母国紹介（4か国）

（1）スリランカ民主社会主義共和国　(Mr.)ササンカさん　宇都宮大学工学研究科大学院修士
(Ms.)タノージャさん　ササンカ夫人　日本語勉強中

インド洋にある、面積6万5600㎡（北海道の約80%の大きさ）の小さな島国。16世紀からポルトガル、オランダ、イギリスの植民地になっていたが、1948年にイギリスから独立。1972年までセイロンと呼ばれていた。四季はなく、年間平均温度28度。モンスーンの影響で雨が多く、森林が豊かで、象など野生動物が多く生息している。島の周りには鯨が泳ぎ、白砂のビーチではサーフィンや日光浴を楽しめる。人口の70%が仏教徒。仏教の影響が大きく、大仏や大きなパゴダが沢山存在している。日本からの観光客が大勢訪れている。紅茶、ゴム、ココナツなどの農産物、ルビーなどの宝石類、観光が主な収入源である。紅茶は世界第4位の生産高を持つ。紅茶の輸出先としては、アラビア、ロシア、日本、トルコなど。

男性の伝統衣服は、上下に分かれた着やすいサロン。一方、女性の伝統的衣服サリーは6mの布を巻き付けて身に着けるので、慣れていない人は着るのに30～40分かかる。学校の先生は必ずサリーを着るように定められている。食事は、米食が中心で、数種類のカレーと一緒に食べる。正月は太陽の動きによって日が決まり、だいたい4月頃である。正月には皆が一緒に決まった時間に伝統料理を食べ、お寺に詣でる。

（2）ベトナム社会主義共和国　(Ms.)ミ・ビンさん　宇都宮大学国際文化研究科大学院修士　文科省留学生

東アジア・東南アジアのインドシナ半島の東部に位置し、南北に長く、面積は33万㎢（日本の九州を除いた大きさ）。人口は約9000万人。54民族が住み、87%がキン族＝ベトナム族。公用語はベトナム語（キン語、安南語ともいう）。古来、中国の支配を受けていたため、日本語、朝鮮語、チワン語などと同様、漢字文化の影響を受けている。辞書の70%以上の単語は漢字に由来し、発音も似ている。現在のベトナム語の表記方はラテン文字（クオック・ゲー）で、17世紀にフランスの宣教師が考案し、フランス植民地化以降普及し1945年に正式に採用された。成人の識字率は高い。漢字が1954年に廃止されたので、古い文献は漢字で書かれているので、読めなくなっている。

ベトナム料理は、長く中国文化の影響を受けてきた中華料理の影響が色濃く、また、フランス植民地統治を受けたためフランス食文化の影響も多く残っている。米食文化であり、麺類は基本的にライスヌードル。魚醤（ヌックマム）などの発酵調味料を使う。

日本人にはベトナム戦争の記憶が強く残っているようだが、今のベトナム人は平和を愛し、戦争に反対する、心温かい、親切な民族であることをもっと知って欲しい。

（3）メキシコ合衆国　(Ms.）ロサリオさん　宇都宮大学教育学部　文部省日本語・日本文化教員研修生

北アメリカ南部に位置し、日本からは飛行機で16～20時間かかる。面積は196万㎢（日本の約5倍）。首都はメキシコシティ。人口は1億2233万人。公用語はスペイン語、宗教は約9割がカトリック信者。

世界遺産の宝庫と呼ばれるほど多く存在し、各国から大勢の観光客が訪れる。最も古い文明は紀元前2000年以上前に出現したといわれるオルメカ文明（巨石人頭像が有名）。その後も、後期マヤ、テオティワカン（巨大な太陽のピラミットが有名）、トルテカ、アステカなどの複数の高度な先住民文明が出現し、繁栄を極めていた。アステカ（メシーカ）文明は現在のメキシコシティの地で栄えたが、16世紀に侵入したスペインによって事実上滅亡した。

メキシコ料理は、アステカ族の料理、マヤ族など先住民族の料理を母体として、スペイン料理の影響を受けて成り立っている。トウモロコシ、インゲンマメ、多様なトウガラシ（チリ）を用いた辛味の効いた料理で知られる。主食はトルティーヤ（トウモロコシをすり潰して作る）。伝統料理は2010年ユネスコの無形文化遺産として登録された。

(4) モンゴル国　(Ms.)**ウンダラルさん**　　一橋大学商学研究科大学院修士　（宇都宮大学卒）

東アジアに属し、ロシアと中国に接して、地政的に重要な位置をしめている。日本から直行便で、5 時間位で首都ウランバートルに着く。面積は日本の約 4 倍で、人口は日本の 45 分の 1 の 295 万人。年間で 1 番暑いのは 7 月で、摂氏 25 度、暑くても 30 度。寒いのは 1 月で、摂氏マイナス 30 度。

平均寿命は 67 歳。25～29 歳の若者が多い若い国。もとは遊牧民であるが、都市に移り住む人が増えており、人口割にして 61%が都会、35%が地方、海外に 4%が住んでいる。海外に住む人の割合で、一番多いのは韓国、次はアメリカ、中国。留学先として日本は 5 位である。

モンゴルを代表する伝統楽器「馬頭琴」は、モリン・ホール「馬の楽器」という意味で、文献によると 2000 年以上の歴史があり、ネスコに登録された世界無形文化遺産である。都市に住む人が多くなり、弾けない人が増えているが、馬頭琴は「良いことが訪れる」という縁起の良いものとして、多くの家に飾られている。

馬頭琴「馬の走り」　**演奏者：藤岡葵さん**（日本人演奏家、ウンダラルさんの友人）

馬頭琴には、ヘッドの先に馬の頭の彫物があり、その下に龍の飾りがついていて、龍が馬を守っていると言われる。2 弦の楽器で、弾き方は足の間に挟んで、チェロのように弾くので、「草原のチェロ」ともいわれる。

演奏する曲「馬の走り」は、家族のような存在である馬をテーマにして、初めはゆっくりした歩調で大草原を行く馬をイメージし、次に速いテンポに変わり、馬が走る様子を示し、最後は馬のいななきを表わす。

14：20　第 2 部　パネル・トーク

メイン・テーマ ：

日本と私、そして未来へ

サブトピック：　「日本に留学した理由と成果」「将来の夢・日本と母国との交流」

パネル司会：　今井 潤　　慶応ユネスコクラブ代表　慶応義塾大学法学部政治学科 2 年
：　岩田麻衣　　港ユネスコ協会ユース活動委員　中央大学法学部法律学科 4 年

パネリスト：母国紹介のササンカさん、ミ・ビンさん、ロサリオさん、アセリさん、ウンダラルさん　と、

スリランカ民主社会主義共和国	(Mr.) ラヒルさん	宇都宮大学工学部電子工学科）
大韓民国	(Mr.) キム クァンイルさん（金 光一）	宇都宮大学国際学研究科大学院博士課程
中華人民共和国	(Ms.) シュ レイレイさん（朱 麗麗）	作新学院大学経営学研究科大学院修士
中華人民共和国	(Ms.) ソウ　ブドウさん（曹 布道）	宇都宮大学教育学科大学院修士

＊日本を留学先に選んだ理由

ラヒル(スリランカ)：小さい時から兄の持つパスポートに憧れていた。自分も広い世界を見たい、自立して一人暮らしをしたいと思った。IT が進んでいる日本に留学したかった。

曹さん（中国・内モンゴル自治区）：兄が東京に留学した経験を持ち日本語の先生をしているので、日本に関心を持った。また、小学校時代から日本のアニメ、例えばドラエモンなどが好きだった。今は中国で先生をしているので、帰国後は日本の教科書を参考にして、より良い教育をする方法を考えたいと思う。

朱さん（中国）：日本に住む親戚の人から、「日本は平和で素晴らしい国だ」と聞いたので、自分も実際の日本に住んでみたいと思った。小さい時から日本のアニメ、特に「ちびまる子」などを面白く見ていた。

ウンダラルさん（モンゴル）：高校の先生から「日本に留学して医者になる」ように勧められ、日本語の勉強を始めた。しかし、医者よりも事業の経営に強く惹かれ、進路を変えて、経営の勉強をしている。

ロサリオさん（メキシコ）：日本のテレビ番組のアニメを見て、日本は文化の国だと思った。大学では美術を専攻し、中学校で教えている。日本の文科省の留学のチャンスがあったので応募した。浮世絵は本やインターネットで見て惹かれていたが、日本の美術館で素晴らしい本物を見ることができて嬉しい。

ミ・ビンさん（ベトナム）： 2005～2007 年の間日本で日本語の勉強をした。今回は 2 回目の留学。今度は日本語の先生になるために、もっと日本語の能力を高めたいと思っている。

キムさん（韓国）：韓国の大学で日本教育を専攻し、日本語の先生を目指した。日本語の先生になるには、日本の社会や文化を体験した方がいいと思い、2007 年から交換留学生として 1 年間日本に滞在した。1 年間では物足りなく、2011 年 10 月から大学院に入って勉強している。

ササンカさん（スリランカ）：高校までは、がり勉の成績のいい生徒で、将来何になりたいかは頭になかった。技術者の父から、「若い時に留学して、進んだ技術を学ぶのがいい。」とアドバイスをもらい、将来の展望の持てる日本に留学を決めた。

＊日本に来る前、日本について持っていたイメージと、日本に来てからの印象は？

ラヒルさん：技術が大変に進んだ国だと知っていた。日本のアニメ、特にアンパンマンなどはよく知られている。初めて日本を意識したのは「ツナミ」という言葉から。英語でもスリランカ語でも日本語の「ツナミ」を使っているのは、日本は昔から津波で大きな被害を受けてきたから。大きな被害にも負けず頑張ってきたのだと知った。

曹さん：富士山の印象が大きかった。来日してから、富士登山を試みたが上まで行けなかった。

朱さん：日本に住んでいる親戚から、「日本人は気配りのあるやさしい人たちだ」と聞いていた。小さな国なのに世界遺産が沢山あるのは素晴らしいと思う。

ウンダラルさん：日本は面積の狭い国だとイメージしていた。来てみると、都会には大きな建物がいっぱいあるし、人が多いので、とても広いなという感じを受けている。

ロサリオさん：文化的な国だと思う。日本にはいろいろと助けてくれる人がいて、心の温かい国だと思う。

ミ・ビンさん：大学の頃は、インターネットやパソコンがそれほど普及していなかったので、日本語の先生を通してしか日本についてのイメージが持てなかった。経済が進んでいて、中古の電化製品のゴミが多いと聞いていたので、日本に行ったらテレビや冷蔵庫などは買わなくてもいいのかなと想像していた。

キムさん：町がきれいだ、地震が多い、礼儀正しい人々が多い、というイメージだった。来てみると、ゴミがないし、車のクラクションも鳴らない、しかし、地震はやはり多い。「有難う」「すみません」「失礼します」という言葉をよく耳にするから、礼儀正しい人々だなと思う。

ササンカさん：6 年前は、インターネットなどの情報があまりなく、「おしん」が人気でよく見ていた。日本について飛行機を下りた時、間違って、ヨーロッパの国に来たのではないかと思った。「おしん」からイメージしていたのは、村があって、ゆっくり歩く人々の姿であったので、全く異なっていた。スリランカでは、「日本は、第 2 次世界大戦に敗戦して苦しんだが、皆で頑張って立ち直った」ということが良く知られている。留学して 6 年経た今も、日本人は国を愛し、一生懸命に頑張って、努力しているという印象は変わっていない。

＊留学の成果について

ラヒルさん：来日前は、日本語が全くできなかったが、1 年間日本語を勉強してから、沖縄の高専に入り、日本人の学生と一緒に勉強した。良い成績をとれたので、もっと研究を続けたいと思い、宇都宮大学の 3 年に編入した。自分のやりたい研究を続けている。

曹さん：町に花が沢山ある。散った桜の花びらを掃除している人を見て、日本人はきれい好きなのだと思い、日本が好きになった。どうすれば、日本人のように、内モンゴルの子供達を育てられるかなと考えている。

朱さん：日本語を上手に話せるように努力している。ずっと宇都宮に住んでいるが、大勢の人々と知り合い、支えてもらえることは幸せだと思う。母国では親に頼ってしまうが、自分で出来ることはするようになった。

ウンダラルさん：学業の他に、人間として学んでいることが多い。日本人と交流しコミュニケーションを取ることで、相手の身になって考えられることを学び、人間性が広がったというか、人間的に成長したように思う。

ロサリオさん：日本で、自分の国と全然違う文化を学んでいる。人間関係、大学での学び方など、全く違うので、日々、新しい世界を経験しているのが楽しい。

ミ・ビンさん：日本に来たことは正しい決断だったと今思っている。日本の社会から、「大切なのは人と人とのつながりであり、助け合うことである」ということを学んでいる。日本人の温かい心を感じ、自分も温かい心を持つよう心がけたいと思う。

キムさん：日本で体験しているすべてのことは、必ず自分の将来につながると思う。勉強していること、美味しいものをたべること、今日のようなイベントに参加すること、そこからの出会いなど、いつか、どこかで役に立つと信じている。さまざまな経験を通して、自分の視野が広がってきていると感じている。

ササンカさん：成果は、①英語と母国語に加えて日本語も話せるようになった。②スリランカの友人、日本人や外国人の友達と会って、自分の世界を広げることができた。③留学して、「勉強はお金との戦いだとわかった。」それは、勉強していい成績をとると、授業料免除とか奨学金をもらえるということ。④自分のお金の使い方、料理や片づけなどの生活を、自分で考え、計画をたてることに慣れてきた。⑤スリランカでは、学生で結婚することは出来ない。が、私は今、結婚して二人で暮らしている。これは大きな成果である。

＊将来の夢、日本と母国との交流について

ラヒルさん：日本人の友達をもっと大勢つくり、交流して行きたい。スリランカのことをもっと知ってもらう努力をしたい。

曹さん：内モンゴルは、中国の中にあり、中国語で勉強し、モンゴル語も勉強していることが日本ではあまり知られていない。モンゴル語は伝統的な縦文字を小さい時から勉強している。日本に来てみて、内モンゴルの教育がまだ発展していないこと、不足していることがわかった。帰国したら子供の好奇心を刺激するような教育法を考え教科書つくりの力になりたい。

朱さん：今、日本人は中国に対して良い印象を持っていない人が多いように感じる。私は日本に住んで皆さんに親切にしてもらい幸せだと思っている。「政治は政治、人間は人間」です。中国人も日本人も同じように優しい心を持っている人が多い。なのに、どちらも悪いことしか言っていないのは悲しい。皆さんも中国に旅行して、自然や中国人の心の良さ、やさしさを知って欲しい。将来、観光会社に勤め、中国の良さを日本人に知ってもらえるよう、日本の良さを中国人に知ってもらえるようにしたいと思っている。

ウンダラルさん：日本の経営についてもっと学びたい。日本の若い方に伝えたいメッセージとしては、「ぜひ海外に留学してみて下さい」ということ。自分の文化、自分の国、家族の良さがわかる機会にもなる。自分でお金を稼ぎ、学ぶことは良い人生経験になると思う。

ロサリオさん：日本にいて、心の中の世界が広がった。専門について学ぶとともに、子供達への教え方をも学んだ。母国の子供達が喜んで楽しく学べるように教え方に変えていきたい。

ミ・ビンさん：日本の皆さまには、優しい心に感謝していると伝えたい。各地、特に北海道や沖縄を訪れたい。

キムさん：日本語の教師になることをめざして頑張って勉強し文化を学んでいる。将来、韓国の日本語を学習する人々に、日本語だけでなく、日本のことを客観的にちゃんと伝えられるようになりたい。

ササンカさん：世界のこと、現在の社会の状況を知りたいと思う。が、私は日本語を話せても、まだ日本語の新聞を読むだけのレベルになっていない。今の日本のこと、政治のことなどを、できれば皆さんに教えてもらいたいと思っている。逆に、日本人に、留学生についてどのように感じているのかをも知りたい。

＊将来、「どこで、どのように生きていきたい」と思っておられますか？

ラヒルさん：大学院まで行って研究し、その後大学の先生になるか、会社の研究部門で働きたい。日本に来て、専門の学問の他、文化やマナーなども学んだから、スリランカの大学で学生たちに教えたい。

曹さん：内モンゴルに帰って、先生の仕事をしたい。宇都宮大学には教育学部の博士課程がないので、どこかを探そうと思っている。

朱さん：栃木県で観光会社に就職したい。日本語にまだ自信がないので、もっときれいな日本語話せるようになるための努力をしなければと思う。

ウンダラルさん：将来は経営者になりたい。来年から日本の会社に就職が決まったので、日本の社会人として生活する。5～8 年働いて、経験を積んだ後、何か自分で起業したい。

ロサリオさん：メキシコに帰ってから、日本で学んだことを他の先生に話したい。他の先生にも日本に留学するように伝えていきたい。

ミ・ビンさん：日本語の先生になること。

キムさん：韓国で日本語の教師になること。

ササンカさん：これまでの人生は良いことに恵まれていた。スリランカにはまだインターネットなどの技術が発展していないが、それにはインフラに問題がある。自分が今無線通信に関した研究をしている簡単な無線通信を使って、スリランカにもインターネットを普及させられればいいと思っている。そういう面で、スリランカのために役立つことをやっていきたいと思う。これまでそうであったように、これからも、ずっと目標を持って、前向きに生きたいと思っている。

第３部　15：30　会場の皆さまも、ご一緒に話しましょう！

＊これまでの母国紹介やパネル・トークを聞いて、感想なり、質問があれば会場からもご参加下さい。

＃：皆さんとても日本語が大変お上手だ。外国語上達のための勉強方法を教えて欲しい。

キムさん: 日本文化や、なめらかなイントネーションの日本語自体が好きだった。テレビ、特にニュースを聞きながらアナウンサーの話し方の真似をしたり、常に辞書を置いて、知らない単語が出たらすぐに調べている。

ウンダラルさん：シャドゥイングというが、テレビや誰かの言うことを追ってしゃべる。音楽やニュースを聞いてわからないところは繰り返す。日本人の友人と文通によって、新しい発見をしたり、学ぶことが多い。

＃：皆さんの発言をきいて非常に感動した。ご自分の人生について目標がはっきりしておられる。留学の目的についてもお一人お一人が哲学を構築されていると知りました。一つ、お願いですが、留学中にぜひ一人でも多くの親友をつくって欲しい。最大、最良のお土産として持帰っていただき、日本を思いお越し、日本との懸け橋として、両国関係がよくなるようにしていただきたいと熱望します。ご健康とご活躍を心からお祈りします。

＃：日本は高齢社会といわれ、年寄りが多いですね。皆さんのお国ではお年寄りはどうされていますか？

朱さん：中国では男性は 55 歳で退職する。すると毎日暇でブラブラするだけの暮らしになる。日本は 60 歳を過ぎても働いているから凄いなーと思う。これから中国でも、日本でも高齢者が増えて大変になるだろうと思う。

ササンカさん：日本の 60 歳のおじいさん、おばあさんも自転車に乗って、1 人でスーパーへ行って買い物をしたり、電車に乗って出かけたりしている。元気な様子を見てびっくりした。スリランカでは父母が家のことをするので、祖父母は何もせず楽にしている人が多い。いつか、高齢社会になると、一体どうなるのかと大変心配である。

＃：日本のこういうところが納得できないと思うことがあれば教えてください。

ウンダラルさん：①大学の授業中、先生の質問に、誰も手をあげないで下を向いている。モンゴルでは知っているなら手を上げて答える。もっと積極的に質問したり、意見を言えばいいと思う。　②大学で 1 度知り合った友達に、2 度目に会った時挨拶したら、初めて会ったような話し方をされたのでショックを受け、その後他に人にも声をかけられなくなった。もっと気楽にいろんな人と話をすればよいと思う。

ササンカさん：普通に会った時に、あまり顔も見ないし、あまり話さない人が多いと思う。しかし、お酒を飲むとよく話し、友達のようになる。これは何故なのか、不思議であり、わからない。

曹さん：どうして「ごめんなさい」「すみません」と言って話だすのかわからず、最初、びっくりした。

＃：学生生活以外で、どのように時間を過ごしますか？ 差支えなければ、アルバイトや趣味など教えて欲しい。

ラヒルさん：大学から帰るとアルバイトをする。ニュースを見たり、音楽を聞いたり、サークルに参加したり。
朱さん：週 3～4 日中華料理店でアルバイトをしている。研究発表のために図書館で調べ物をしたり、友達とゲームなどもする。
ウンダラルさん：3 年近くユニクロでアルバイトをしている。公園などに出かけたりする。時間が足りない位だ。
ロサリオさん：大学で 70%の時間を過ごしている。授業の後も調べものをしている。時間があれば、友達と会ったり、映画館へ行く。
曹さん：ほぼ 1 日、図書館で調べ物をしている。アルバイトをする時間は全然ない。
キムさん：韓国語を教えるアルバイトをしている。教えることで逆に言葉について学ぶことも多い。大学で過ごす時間が長いので、時間がある時には、グランドで運動したりしている。
ササンカさん： 60～70%は大学院で研究している。週に 2～3 回アルバイトをしている。余った時間には家の仕事をして奥さんを手伝っている。

＃：好きな日本語があれば教えて下さい。

朱さん：「笑う門には福来る。」笑っていると、良いことが起こるという意味ですよね。
ウンダラルさん：アルバイト先で言う「いらっしゃいませ」という言葉が、1 週間の中で一番よく使う言葉かもしれない。
ロサリオさん：日本語のオノマトペ（擬声語、擬音語）が面白いと思う。

＃：ラヒルさんが、自分の国のことで何か知って欲しいことがあるそうですが。

ラヒルさん：第 2 次世界大戦後の 1951 年、サンフランシスコ講和会議において、戦勝国である連合軍は、日本に対して厳しい賠償と制裁措置を求め、ソ連は日本分割占領案を提案した。その時、セイロン（現スリランカ）代表ジャヤワルダナ大統領が日本分割案に反対する演説をした。この名演説が諸外国代表の心を打ち、ソ連の反対を押し切り、分割が免れ、日本の国際復帰への道につながったと言われている。この話はスリランカでよく知られているが、日本の大学生もあまり知らない。日本とスリランカの関係をもっと知って欲しいと思う。

＃：日本の好きな季節はいつですか？

曹さん：春の桜と、秋の紅葉が好き。
朱さん：春が好き。希望を与えてくれる感じがする。
ウンダラルさん：春と秋が好き。桜や紅葉も美しいが、何よりも過ごしやすいこと。エアコンの必要がない。
ロサリオさん：私の国には四季がないので、冬も、春も好き。
ミ・ビンさん：私の国も、北部は四季があるが、日本ほどはっきりしていない。日本では秋が好き。
キムさん：春と秋が好きだが、どちらかと言えば春の方が好き。何かが始まるという感じがするから。
ササンカさん：冬が好き。汗をかかないから、同じ服を何回も着ることができ、コートさえ着ればいいから。

＃：モンゴルのお相撲さんが強く、日本の相撲を支えてくれている。優勝の時にはモンゴルの国歌を演奏すべきではないかとかねがね思っているが。（笑い）

ウンダラル：考えたこともなかった。相撲は日本の文化だから、日本の国歌でいいのではないかと思う。（笑い）

パネル・トーク司会者　今井 潤さんのまとめ

いろいろな面からのお話を聞くことができて、とても興味深く思いました。日本で異文化を体験されている皆さんの話は大変意義深く、学ぶべきところが沢山あったと思います。今日のユース・フォーラムの目的「異文化交流と相互理解」にかなったものだったと言えましょう。私が個人的に思ったことを申し上げるならば、留学生の皆さんが将来のビジョンや意志をはっきり持って日本に来ておられること。それらのお

話しを聞いて、単にすごいなーと思うだけでなく、今度はそれらをどのように自分たちが活かせて行けるのか。相互理解を通じて、自分たちも成長していかなければいけないのではないか、日本から、留学生の皆様の理解を深めるための取り組みをもっとしていきたいと強く思っています。

素晴らしいトークをしていただき、感謝します。有難うございました。

16：10　第４部　みんなで歌いましょう！

司会と、アコーディオン演奏　：　港ユネスコ協会 清水軍治理事

清水理事の元気溢れる張りのある歌声と、アコーディオンの音色にのって、会場が一体となって歌いました。それぞれがご自分の故郷を心に描きながら、また、動作を交えて楽しく歌うことで、参加者の皆さんの心は解きほぐされたようです。

曲目　① ふるさと　　⑤幸せなら手をたたこう

16：30　第５部　自由な交流を楽しみましょう！

交流会司会：利根川護　玉川大学ユネスコクラブ代表、玉川大学経営学部観光経営学科３年
：室久智栄　玉川大学ユネスコクラブ　　玉川大学経営学部国際経営学科１年

第５部の司会者お２人は､同じクラブならではの息の合ったテンポのいい掛け合い形式で、交流の進め方をユーモアたっぷりに説明された。

椅子を動かして、広い平間の空間を作った。全員参加で、動きやすく自由に交流できるように、全員が立ったまま、グループに分かれて、気楽なテーマで話をする。３回のグループ分けで、グループや人が次々に入れ替わる。

1)　**誕生月によるグループ分け**（①1～3 月、②4～6 月、③7～9 月、④10～12 月）。
　テーマ：あなたの国のパーソナリティ（性格、性質、特徴）は？

2)　**心理テストによるグループ分け**（あなたが友達３人でカラオケに行った場合、どういう行動をしますか？
　①真っ先に歌う　②友達と相談してデュエットする　③他の友達にリクエストする
　④じっくり歌いたい曲を選ぶ
　テーマ：あなたの国の若者の間で、今、流行っていることは何ですか？
　（心理テストの分析結果が、最後に紹介された。）

3)　**血液型によるグループ分け**　（① A 型、 ② B 型、 ③ AB 型、 ④ O 型）
　テーマ：恋愛や結婚事情について。出会い、結婚する年齢、結婚式、男女の立場の強さなど。

グループごとに、まずは自己紹介。どのグループにも、留学生や異なる年代の人が混じって入っており、しかも、誰にでも話しやすい興味あるテーマなので、話は尽きなかった。大変に盛り上がり、大きな笑い声が会場の方々で広がり、時間があっという間に過ぎてしまった。

今回、初めて取入れたこの交流の時間はお互いに親しく話せて、よかったとの声が高かった。

17：20　エンディング

留学生のお礼のことば　留学生を代表して、スリランカのササンカさん

港ユネスコ協会会長、東京の日本人大学生の実行委員会の皆さん、長門・留学生のお母さん、今日、このような素晴らしい機会を与えて下さって、有難うございました。

簡単に、今の自分の気持ちを話させていただきます。外国人の留学生として、今日ここに来て、日本人の前に立って、「母国紹介」として自分の国のことを話し、その後、日本において自分たちが日頃経験していることを話すことができました。今、自分の頭にあること、心にあふれる気持ち、感激深さは、言葉では言い表せません。日本人の皆さん、若いうちに世界に出て、外国に留学してみてください。私が「言葉では言い表せない」というのはどういうものなのか、皆さんも私の気持ちを体験して下さい。有難うございました。

閉会のことば　港ユネスコ協会ユース活動委員　岩田麻衣さん

皆様のご協力のおかげでつつがなく行うことが出来ましたこと嬉しく存じます。遠方から来て下さった留学生の皆様、有難うございました。祖国を離れ、不安な気持を感じながらも、お一人お一人が目標に向かって邁進しておられるご様子がお言葉一つ一つから伝わってきて感銘を受けました。さらに、大学での過ごし方やアルバイトのこと、普段の生活についても聞くことが出来、身近に感じることができました。

私たちには、改めて「日本」という国についての気付きのチャンスとなりました。また、外国への関心が一層高まり、海外留学をしてナマの文化や生活を体験してみたいと強く思いました。

実施にあたりご支援下さいました港区教育委員会、港ユネスコ協会、そして、いっくら国際文化交流会の長門芳子先生、有難うございました。準備を進めていく中でユネスコ活動をしている異なる大学、異なる組織の学生が一緒に活動することの大切さを感じました。これからも、異なる民族・文化を知るナマの交流の場として、ぜひこの UNESCO ユース・フォーラムを続けていけたらと思います。

最後となりましたが、留学生の皆様が今後も日本で充実した経験を重ねられ、母国と日本の架け橋としてより一層ご活躍されますようお祈り申し上げます。

「東日本大震災子ども支援　ユネスコ協会就学支援奨学金」募金のお願い

慶応大学ユネスコクラブの中村晴香さんと吉澤未有さんから、日本ユネスコ協会連盟が教育支援活動として行っている募金活動の説明と、ご協力依頼がありました。

17：30　閉会　**すべてのプログラムは無事、スケジュール通り終了いたしました。**

チラシデザイン(和・英)	ササンカ（スリランカ）		宇都宮大学工学研究科大学院修士
照明	小原英真	玉川大学ユネスコクラブ	玉川大学文学部比較文化学科２年
マイク	鶴岡真人	新宿ユネスコ協会	目白大学地域社会学科３年
カメラ	飯富梨紗子	玉川大学ユネスコクラブ	玉川大学文学部比較文化学科２年
カメラ	小林敬幸	港ユネスコ協会	

会場設営、受付：玉川大学ユネスコクラブ、慶応大学ユネスコクラブ、新宿ユネスコ協会青年

～後日、留学生と、実行委員の皆さんからいただいた感想文～

Mr. ササンカさん（スリランカ民主社会主義共和国）

新幹線で上京してフォーラムに参加した。去年の参加者に再会し、また、新しい友人もたくさん出来て、とても楽しい一日だった。自国について日本人の前で話すことは、「スリランカの代表として日本に来ている」感じがして嬉しかった。みんなの前で自分の経験を話すことは、言葉で表せないくらい楽しく、貴重な機会だった。これから留学しようとする人には、きっと役立つと思う。皆さんに自分の将来の目的について話したことで、今まで以上に頑張ろうという気持ちになった。いろいろ良い経験ができた。

Ms. タヌージャさん（スリランカ民主社会主義共和国）

とても楽しかった。いい経験でした。新幹線に初めて乗りました。夫と皆さんの前で初めて発表しました。初めてだったのでどきどきしていました。日本人の皆さんにスリランカの民族衣装・サリーについて話しました。初めてこのようなプログラムに参加して、いろいろなことを勉強出来ました。新しい友だちができました。皆さんと話して日本語もうまくなりました。

Mr. ラヒルさん（スリランカ民主社会主義共和国）

大変良い経験ができました。港ユネスコ協会の皆様、日本人大学生実行委員の皆様、大変お世話になりました。パネル・トークで他の留学生の経験や意見を聞くことが出来て、とても良い機会だったと感謝しています。日本人学生との交流は大変楽しかったです。新しい友達ができ、このつながりは長く続くと思います。初めての参加でしたが、機会があれば是非また参加したいです。港ユネスコ協会の一層のご活躍をお祈りします。

Mr. キム・クァンイルさん（大韓民国）

とても貴重な経験になりました。今回のフォーラムを通して、日本だけでなく他の国の人々ともたいへん有益な交流ができました。このような素晴らしいイベントに参加することができたことを、大変嬉しく思います。もし私に再びこのような機会が与えられるならば、ぜひ参加したいと思います。この行事のためにいろいろお世話して下さった皆様に、感謝の言葉を申し上げます。本当にありがとうございました。

Ms. 朱麗麗さん（中華人民共和国）

去年と今年、参加させていただきました。友達もたくさん出来、交流も出来て、とても楽しい一日でした。参加した留学生の中にすごく日本語が上手な人が居て吃驚しました。努力すれば、あんなに上手くなるのだなと思い、もう一度、初心に戻り基礎から勉強しようと思いました。大勢の日本人の方々から「頑張ってね。」と応援の言葉をいただき、心が温かくなりました。このようなチャンスを与えていただき、ありがとうございました。

Ms. 曹布道さん（中華人民共和国）

楽しい貴重な体験をさせていただき、嬉しく思っています。来日直後、川崎の日本語学校で学んでいた時、川崎市のボランティア活動や、ホームスーティも体験しましたが、今回のような国際文化交流の集いには初めて参加しました。4か国の文化や人々の暮らしなどの説明を聞いたり、他の国の留学生、日本人学生、ユネスコ関係者、参加者と交流ができました。素晴らしい思い出となりました。準備して下さった皆さまに心より感謝します。

Ms. ミ・ビンさん（ベトナム社会主義共和国）

参加させていただき、誠にありがとうございました。母国を紹介することができたことを大変嬉しく思っています。年輩の方、日本人大学生、そして留学生など、大勢の皆様に出会えたことは本当に貴重な機会だと思いました。また、このような出会いがあることを期待しています。皆様の留学生への関心やサポートは私たちの力になっています。是非、私たちの頑張る姿を見ていただきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

Ms. ロサリオさん（メキシコ合衆国）

ご招待いただき有難うございました。参加したことで心が新たに元気になったように思います。メキシコの文化や、日本での私の体験を皆様に聞いていただき、また、他の留学生の日々の生活や考え方を聞かせていただきました。この美しい日本と豊かな文化への理解を深め、私の日本に対する観点が広がったと思います。私のこれからの人間関係を広げることに役立つと思います。何よりも、この豊かな地球上には様々な生活スタイルがあるのだと認めることの大切さを学びました。

Ms. ウンダラルさん（モンゴル国）

実行委員の皆さん、会場に来て下さった皆様に感謝いたします。私は3回目の参加でした。毎年それぞれに特徴があり、しかも、進歩していると感じます。今年は日本人学生と留学生の人数も多くて、お互いの交流を深めることができました。親友の藤岡葵さんに馬頭琴の演奏の機会をいただき有難うございました。貴重な大切な思い出となります。また来年も立派なユース・フォーラムを企画してくださることを期待しております。

実行委員　（五十音順）

実行委員長　**佐藤修平さん**（港ユネスコ協会ユース活動委員長）

自分達の力で何かをやりきる事。それがどんなに大きい事業であれ、小さいイベントであれすべからく大変な事であり、成長の糧になる。今回はそれを改めて実感出来たフォーラムでした。去年のお手伝いという立場というから、実行委員長という立場で望んだ今年は、10月4日という日がとても濃く存在し、迫ってくるのを感じて準備期間を過ごし、当日も皆様の支えもあり満足のいく、そして次回にもつながるフォーラムが出来たと思います。この場をかりて改めて、当日関わって頂いた皆様に深くお礼を申し上げます。

実行副委員長　**吉原浩昌さん**（港ユネスコ協会ユース活動副委員長）

UNESCOユース・フォーラムという企画・運営にまた総合司会者として参加できた事とても嬉しく思っています。今回のユース・フォーラムは私にとって大変大きな経験となりました。留学生の話しを聞くと、知らない文化、価値

観を持っていて、世界が広いと感じることができました。また交流会では、直接聞かなければわからない貴重な話しも聞けました。来年の次も参加し、留学生と交流したいと思います。

飯富 梨紗子さん　（玉川大学ユネスコクラブ）

UNESCO ユース・フォーラムへ参加するのは今年で二回目でしたが、今回のように実行委員として活動するのは初めての経験でした。そのため、最初は不安な部分もありましたが、周りのみなさまの協力のおかげで、無事に開催することができて本当によかったです。ありがとうございました。

今井潤さん　（慶応大学ユネスコクラブ代表）

この度のユース・フォーラムは様々な国々の人々と交流することができた点で非常に新鮮で貴重な体験となりました。何より印象に残ったのは、各々の留学生が日本のことを尊重しているだけでなく、留学の目的、その先に見据えている将来のビジョンが非常にしっかりとしていたということでした。このことはすごいな、と感心するだけでなく、我々日本の学生も見習わなければならないと強く感じました。見識を深めるだけでなく、自分の小ささを知り、これからの自分にそれを活かす、それこそが新しいものとの交流の醍醐味であり、それがかなった良いフォーラムでした。

岩田麻衣さん　（港ユネスコ協会ユース活動委員）

今年はパネル・トークの司会者として直接留学生とお話しをさせていただき、大変貴重な機会となりました。
質問に答えて下さる留学生の眼差しは真剣そのもので、そこから留学生の母国や日本に対する熱い思いをひしひしと感じました。また留学生が日本について語る中に、今まで自分では気づかなかった新たな発見があり、日本という国について改めて考えてみるきっかけとなりました。学生が足並みを揃えて一つのイベントを作り上げることの大切さや達成感を強く感じました。またこうしたイベントに携わる機会があれば幸いに思います。

小原 英真さん　（玉川大学ユネスコクラブ）

去年はただ聞く側として、今回は企画者として港ユネスコ協会のユース・フォーラムに関わらせていただきました。企画から参加することで、他大学の方との繋がりを作れたし、さらに本番では舞台装置、舞台照明を操り、裏からフォーラムを支えることができたので、去年をはるかに上回る充実感を得られました。次回も携われる機会があれば是非とも企画から参加したいです。

鶴岡真人さん　（新宿ユネスコ協会）

私はこのユース・フォーラムに参加して様々人たちと出会い、様々な経験をさせていただきました。ユネスコの学生たちが集まり、自分たちの納得するまで話し合い、当日の運営も行うというものは私自身求めていたものでもあり、留学生の方も接しやすい環境にできたのではないかと感じています。しかし私は今回のユース・フォーラムが全面的に成功というわけではなく、この企画は今後さらに良くしていくことができる伸びしろのある企画だと確信を持つことができました。

利根川 護さん　（玉川大学ユネスコクラブ代表、）

今回のユネスコ・フォーラムで感じたことは主に 2 点です。まずは企画の楽しさです。大きなイベントを他のユネスコ協会の学生と一緒になって企画を考えることは大変でした。しかし振り返ってみると、聴衆の方々が楽しんでいる様子を見ながら、企画に携われてよかったと感じると共に、達成感に満ち溢れています。次に留学生についてです。留学生は将来のことや日本のことについてきちんと考えているのに刺激を受けて、自分ももっと頑張ろうと思いました。今回のイベントを通じてもっと世界のことを知りたくなりましたし、世界に今以上に視野を拡げたいと思います。

室久 智栄さん　（玉川大学ユネスコクラブ）

「UNESCO ユース・フォーラム in みなと」に参加するのは今回が初めてでした。私は少しだけですが企画から携わらせていただき、当日は自由交流の部の司会を担当させていただきましたが、とても楽しかったです！　普段あまり関わりをもつ機会のない留学生たちの生の声を聞けるのはとても興味深かったです。また、留学生の皆さんが自分の考え方や目標をしっかり持っているのを目の当たりにして、私ももっと頑張ろうと思いました。

来年度もまた参加できたらと思います。

〔担当：ユース活動委員会　　まとめ：高井光子（会長）〕

第 18 回　MUA サロン

「鳥の目、虫の目でみる世界」

話者：佐藤 修平さん

（ユース活動委員会委員長・中央大学法学部法律学科）

日時：2014 年 9 月 30 日（火） 18：30～20：30
場所：生涯学習センター3Ｆ 港ユネスコ協会 事務局

会員による会員親睦のための MUA サロン。今回は、ユース活動委員会の委員長として活躍中の佐藤修平さんに、高校時代から考えてきたこと、疑問に思ったこと、そして行動してきたことなどを話していただきました。
半ばからは会員の皆さんからの質問や意見が行き交い、あっという間の 2 時間でした。

「21 歳の私がお話しできるのは光栄です。これまでに感じてきたことや考えてきたことなどをお伝えさせていただきます。」と話しが始まりました。

佐藤さんのお話しの内容

《 国際高校へ進学 》広島県の呉で生まれ、そこで小学校を過ごし、中学校は千葉県の市川市へ。高校はインターナショナルスクールの松戸国際高等学校へ進学した。ここで、中国人、韓国、欧米の友人たちと一緒に学んだ。半年ぐらい過ぎた頃、少しは国際的な感覚を持てるようになったかなと思い始めていたある時、中国の少数民族ウイグル人の友人と、（中国人口の大多数を占める）漢民族の友人の会話に入り込むことができなかった。少数民族のことが、中国だけでなく、国際的な話題にまでなっていることを知らなかったのだ。その時もっと国際的な視野を持つよう努力しなければならないと思った。授業や、本、テレビ、インターネットなどを通して、世界の情報を知識として知っていても、実際に世界に足を踏み出し、現地に足を踏んでみなければ、生きた人々の暮らしは何もわからない。このようにして、「鳥の目、虫の目」の考え方が浮かんできた。

《 フランスへ留学 》　生きた知識を得るために、世界に出かけてみよう。そう考えて、留学したいと思った。留学先には映画や文化に憧れていたフランスを選び、幸運にもフランスの高校で 2 年間学ぶことができた。フランス語が全く分からない状態で留学したので、半年の間は友達もできなかったし、アジア人ということで差別を受けたこともある。徐々にフランス語で自己を表現出来るようになり、友達もできた。その間受けた 2 つの授業は、私の考え方に大きな転機を与えてくれた。

《 政治と歴史の授業を受けて・・・ 》　「ポリティック（政治）」の授業では、同世代の仲間が、自分の国や政治について、自分自身の意見を持って、クラスで討論し合う。「右翼」「左翼」という概念は、フランス革命時にできた言葉と聞いたが、「自分は右だよ」とか「左だよ」と明言しながら自分の意見を言い、互いにどのような意見に対しても変な目で見ない。

「歴史」の授業では、第二次世界大戦のことについて学んだ。日本で習ったのは、日本を中心にした戦争であった。が、当然、フランスの歴史の時間はヨーロッパ大陸での戦争であり、極東のことには触れないし、原爆のこともさらっとしかやらない。日本での歴史教育とは大きく異なっていることに驚いた。一つの事象を見るにもいろいろな立場、視点から見なければいけない。もっと勉強しなければという思いが募った。

《 鳥の目、虫の目 》　日本にいた時は、日本で生まれ日本人として生活し、日本語で友人と話をするという「虫の目」だけで日本を見ていて、「鳥の目」で見ていなかった。学ぶのは、日本の文化であり、日本からみた歴史であって、世界について基本的なことさえよく理解していないと気が付いた。

《 日本の大学へ 》　フランス留学中の 2 年間にいろいろと「日本」「日本人」を意識した。同時に、日本の基本的なことについてもあまりにも知らないと痛感した。フランスの高校を卒業して日本に帰り、中央大学の法学部へ入学した。フランスは「法律」が強いので、留学を通して法律への関心を覚えたからである。

ヨーロッパにいた時、鳥の目、虫の目で世界を見なければいけないと実感した。今度は、大学で「法律」を学ぶ中で、アメリカやヨーロッパだけが「世界」ではない、つまり欧米、先進国からだけの目は、「本当の鳥の目」ではないと気が付いた。世界を見渡せば、アジアも中東もアフリカ、中南米などがある。そういうことから、フィリピンとトルコへ「ボランティア」に出かけることにした。

《 アジア・フィリピン、そしてトルコへ 》　「フィリピン」は、テレビなど（鳥の目）で見て少しは知っていたが、実際現地に行って自分の目（虫の目）で見ると、びっくりすることが沢山あった。例えば、小学生ぐらいの子供が学校の授業時間のはずなのに「売り子」をしている。住む家もない人たちがいる。一方、同じ町中をフェラーリが走っている。大きな貧富の差を目の当たりにした。知識で知っているだけでなく、自分の目で体験することの大切さを痛感した。

「トルコ」は、キリスト教とイスラム教が交わる、アジアとヨーロッパの交差する地であることに興味を持ち、出かけて、ボランティア活動をしてきた。

地球上には、ある地域では西洋化が進み、豊かに物資が溢れているが、ある地域では、毎日生きるのさえ必死な人々がいる。世界の国々や、人々の生活には大きな格差が存在することを、この 2 国を訪ねてつくづく感じた。

《 近い国・韓国へ、遠い国・アフリカへ 》　お隣の韓国へ行った時、友達のお父さんお母さんと「日本と韓国の歴史的認識のズレ」を話題にしている時、そのズレの大きさに衝撃を受けた。また、遠いアフリカ大陸のウガンダへも行った。ウガンダでは、HIV エイズが蔓延していて、国連の WHO や赤十字などが感染を予防するためにコンドームを配り、感染した人には薬で治療していた。どんな人も、いきなり「HIV エイズですよ」と告知されると恐怖しか残らない。この恐怖心は発達した西洋医学だけでは除けない。西洋医学の押し付けではだめで、精神的に、まず恐怖心を除く段階を重視しなければいけないと感じた。

《 ボランティア活動とは 》　相手を助けたいという気持ちは大切だ。しかし、相手のために何をしたらよいのかを考え、相手がして欲しいこと、必要としていることに手を貸すのが大事だと思う。

一年前にフィリッピンのレイテ島の台風被害地へ支援に行き、今年の夏も再びレイテ島へ行った。ここでは救援物資は定期的に配給されていた。しかし、実態をよく見ていると、本当に必要としているところに届いているのかと疑問を感じたり、心痛む現実を見たりした。

《 結び 》　「グローバル化」が盛んに言われている。今、言われているグローバル化とは、ヨーロッパ、アメリカなど西洋社会を基準にしていて、他の地域や文化を視野に入れていないのではないかという疑念がある。仲間にも世界のルールばかりを唱える人が多い。世界に出たら世界のルールに従うのは当然だとしても、日本の良いところをちゃんと理解しないで、世界のやり方、西洋のやり方だけが正しいと言っているのはおかしい。

「鳥の目」で見て知った知識に加え、現地へ足を運び、その地に住む人たちとの交流によって得る「虫の目」の知識が必要だと思う。ユネスコでも「現地を知ることは戦争を未然に防ぐ」と言っている。上から鳥の目で見ていてわからないことが、虫の目で見ると、その国の人々、そしてその生活がわかる。

真の意味での「グローバロゼーション」とは「鳥の目、虫の目の両方が必要」なのではないだろうか。これが私の 21 年間で、少ない経験を通して考えたことである。

この後、参加者との自由な話し合いの時間となり、殆ど全員が意見を交わす、サロンらしいものとなりました。その内容をお知らせします。

（ ★ は会員の皆さんからの質問や意見、　☆ は 佐藤さんの意見です。）

★ フランス留学中の生活費はどうしていましたか？

☆ 日本でロータリクラブとか留学の機関を通して調べた上で、現地に行き、ホストファミリーを自分で探し出した。そのファミリーのご協力とお蔭によって生活できた。

★ 若い佐藤さんの行動力が素晴らしい。「ウガンダ」はどういうボランティア団体で行かれたのですか？

☆ ウガンダに着いてから、現地での活動団体、例えばドイツの団体に、「日本から来たのですが、何か手伝うことはありませんか？」と言って、仲間に入れてもらった。日本で予防注射は打っていった。

★ 海外へ行くには、日本のどういうところを知っていることが一番必要と思いますか

☆ 政治と歴史。海外から見る目と日本の目に齟齬がある。日本の歴史をただ知るだけでなく自分の意見を持つべきだと思う。

★ 個人的には、日本は近現代の日本史をもっと勉強すべきだと思っています。佐藤さんが学んだ国際高校は「近現代の歴史」の授業はありましたか？

☆ 国際高校（県立）だったので、日本史よりも世界史に重点が置かれていた。

★ 以前、フランスの歴史の授業は、近代から古い時代へ遡って行くと聞いたことがあります。今日でもそうですか？
☆ 歴史の最初の授業はいきなり「ＥＵ」の話から始まった。まず「結果」を提示して、それは何が原因だったのかを遡って考える。例えば「フランス革命が起こった。それには、どういう原因があったか？」という具合。こういう教育方法は日本でも取り入れていけば生徒も勉強しやすいのではないかと思う。
★ 先日のスコットランドの独立選挙の折、16 歳の高校生も、「独立の是非」について自分で考えていると知りました。若い人として、日本の教育について何か思うことがありますか？
☆ 個人的には、近現代歴史教育と英語教育は見直しが必要だと思っている。
★ アメリカ人もフランス人も議論が好きで、自分の考えをはっきり言うときいた。日本人は喧嘩になってしまうようなことを「ディベート」として意見を戦わす。フランスの授業にはディスカッションの授業はありましたか？
☆ ほとんどの授業が「ディスカッション」「ディベート」だった。フランス人は議論好きで、コーヒー一杯で何時間も議論する。例えば「トルコをＥＵに入れるかどうか」、「サルコジ大統領が良いか、オランド大統領が良いか？」など、意見別に分かれて討論する。こういう内容の時の先生は「司会」に徹していた。

★ 以前、フランス人から、「『何故？』『どうして？』と常に投げかけなさい」、「自分の意見を言いなさい」と、小さい時から教えられていると聞きました。
★ 小・中・高校の教育で何か必要だと思うことがありますか？
☆ 日本の良いところをしっかりとり入れつつ、国際社会の中で生きるためのツールとして「ディベート」を取り入れていくといいのではないかと思う。
★「鳥の目、虫の目」で見るというのは、グローバリーだけでなくローカリーにも考え、行動するということ。鳥瞰して見て、かつ、虫の目で見る。両者が織りなして、文化・教養・知識となるという考え方に同感です。
★　日本のことを知るために何かやっていますか？
☆　殺陣（たて）」をやっている。和弓をやっていて、そこからの「袴」つながりで始めた。日本人の所作に素晴らしさを感じての趣味。また、着る服として「和服」は素晴らしいと思っている。
★ 最近「日本人のもてなし」「日本のものづくり」など日本の良さをテーマにした番組が多く放映されていますが，そのような番組を見ますか？
☆ ＴＶを見ることは無く、ラジオを聴くことが多い。オールナイト　日本、さだまさしが好きです。
★ エイズの流行について？
☆ 残念なことに、先進国で日本だけが増えていると聞いている。「性教育」は知っておくべきこととして必要と思う。性教育は学校でも教育すべきだし、または親がすべきところもあると思う。
★ ハーバード大学のマイケル・サンデルさんの白熱授業のやり方は素晴らしいと思いますが、どう思いますか？
☆ 日本では、先生方と学生の求めているもののズレがあるように思う。学生は単位取得だけを求める。一方、先生の方も、「学生が単位だけが目的」ならそれなりの授業ということに終始している。日本は、新卒一括採用。入社一単位というように「単位」だけで双方が動いているように思う。学生が先生を評価するシステムも必要ではないか。
★ 中央大学法学部は司法関係、とくに司法試験に強い大学で　すね？
☆ 東大、一ツ橋とともに中央大学の法学部は司法関係に強い。裁判官、判事や弁護士を目指している友人も多い。
★ 世界各地にさっと出かけるような活動的な佐藤さんは国際的に活躍して欲しいと思います。
☆ 和服の美しさ、機能を世界に発信してく。きものを通して「日本の文化」を発信していきたいと思っている。
★ 留学にかかる費用は高額ですか？アメリカに留学している学生は中国・韓国の人たちが多いと聞きます。彼らの海外に出ていくパワーは大きい。そのエネルギーに負けないようにするためにはどうしたらよいと思いますか？
☆ 奨学金制度があるので工夫すればだれでも行ける。しかし、日本では、むしろ海外に出ようとする人が少ない、そして奨学金への応募者が少ないと聞く。中国・韓国の人のバイタリティは尊敬できる。
☆ 今、世界はアジア中心に動き出している。特に来年は、アセアン諸国での関税フリーもＴＰＰも始まる。中国も韓国も同じアジア圏の一員、対立のディベートも必要だが、友好のためのディベートも大事だと思う。
☆ 中国人、韓国人同士はつながりの意識が強くて、異国の地で協力し助け合うが、日本人は同国の人間同士であるにもかかわらず、はじきあうことが多々見られる。
★ これまで、悲しかったこと、嬉しかったことは？
☆中国、韓国つながりで言うと、悲しかったこととして、個人的に話をすれば「あなた」を好きになるが、国として「日本国」は嫌いだと、特に政治的なことに関して、一方的に言われたことがある。嬉しかったこととしては、「歴

史的な事柄に関して色々な問題があったので、日本のことを誤解していることもある。個人個人として交流し、理解し合う必要がある。難しい問題だが、解決できない問題ではない。」と韓国人に言われたこと。

★日本に来る中国、韓国そしてアジアの方たちが増えています。信頼感、観光、買い物（商品の精度、食の安心）、文化、これらを丁寧に発信し続ける努力が必要ですね。

☆メディアの情報は、各自しっかり考えて受け取らなければいけないと思う。ネット系のメッセージは、だれが書いているのか不明である。新聞などは記事に署名があり、問い合わせたり、確認したりできるが。

★子供は社会が育てるという考えや制度が徹底している国もありますね。

☆教育費として大学まで無料という国もある。

☆若い人に対して皆さんはどのように思っておられますか？　世代間で対立しているようなことも感じるし、また、反対に、「地震・雷・火事・おやじのおやじがいないのでは」と思うこともあるが。

★いつの時代も、年長者は、「今の若い者は、、、」と言ってきました。今の若い方々はなかなか「よくやるな」と頼もしく思っています。

和やかな雰囲気の内に、話しはつきませんでしたが、時間となり、拍手をもってサロンが終了しました。
世代を越えて、より良い世界、より良い日本にむけて、一緒に協力して頑張って行きたいものだと思います。

（会員開発委員会委員長　小林 敬幸）

「33 回みなと区民まつり」に集う

日時：2014 年 10 月 11 日（土）11 時～17 時
12 日（日）10 時～16 時
会場：港区芝公園一帯　みんなの広場部会

「みなと区民まつり」は広い港区芝公園一帯を会場にして、5 つのエリア（増上寺、区立芝公園、港区役所、東京プリンスホテル、都立芝公園）に分かれて、大勢の区民参加のもと、毎年 10 月に開催されています。

MUA の「区民まつり特別委員会」のメンバーは少数ですが、毎年、会員の皆さんの協力によって支えられ、「みんなの広場部会」に、参加しています。

幸い両日とも好天に恵まれ、大変な人出で賑わいました。港区長様がわれらのテントにも立ち寄って下さいました。

MUA ブースには、各委員会の活動を紹介するパネルを展示して、近くを通る方々に、MUA やユネスコへの理解を呼び掛けました。

また、ミニチャリティーバザーとして、アクセサリー類（これは会員のご寄付）などを並べました。毎年 MUA のバザーを楽しみに早い時間から来てくださる常連の方がおられるほど好評で、準備した品物はすべて売り切れました。

この売上金は、東日本大震災こども支援のための募金活動の一環として、「ユネスコ協会・就学支援奨学金」に寄付させていただくことをお話ししながら、お客様の手で、直接募金箱に入れていただきました。

毎年「みなと区民まつり」へ参加することで、地域の方々に MUA の活動を広く親しんでいただき、浸透できればと願っています。

ご協力下さった会員の皆様、有り難うございました。

みなと区民まつり特別委員会　　担当常任理事　渡部俊子
写真：　委員長　北岡修

事 務 局 便 り

【ようこそ 新入会員】 個人会員：有働功さん、桐渕泰雄さん

【今後の行事予定】 （詳細は別途、チラシやホームページでご案内します）

☆1月7日～4月1日　毎水曜日、18：30～20：30　英会話初級クラス、コース全14回
講師：マーク・マードック先生　会場：港区立麻布区民センター
☆1月24日（土）13：30～16：00　茶の湯体験教室　会場：港区立生涯学習推進センター203号室
☆1月25日（日）12：00～14：30　MUA会員懇親新年会　会場：レストラン「グリフォン」
☆2月10日（火）14：00～15：00　フィリピン大使館訪問
☆2月14日（土）12：00～15：30　世界の味文化紹介（予定）会場：区立みなとパーク芝浦　料理室
☆2月28日（土）13：00～16：00　シンポジウム　会場：区立みなとパーク芝浦 リーブラホール
テーマ（仮題）「人が主体となる街作りのスタート～オリンピックに向けた東京の街作り～」

【ご寄付、ご寄贈品など。ご協力ありがとうございました】

(A) 日本ユネスコ協会連盟の東日本大震災子ども支援募金（就学支援奨学金として）

☆9月16日（火）	第2回国際理解講演会	会場での募金	3,500円
☆10月4日（土）	UNESCOユースフォーラム in みなと	会場での募金	3,500円
☆10月10日（金）	事務局募金箱への募金合計		1,500円
☆10月11・12日（土・日）	みなと区民まつりでのバザー		14,986円
☆11月15日（土）	第2回世界の味文化紹介	会場での募金	30,000円

(B) ミンダナオ子ども図書館への寄贈と寄付
☆衣料品、運動靴など ： 今村孝子さん、奥村和子さん、葛西章江さん、鈴木明美さん
高井光子さん、宮永恵子さん他
☆寄付（送料分として）：永井美智子さん（10,000円）、今村孝子さん（5,000円）

【ご協力のお願い】

＊日ユ協連・東日本大震災子ども支援募金 常時受け付け中です。
＊ミンダナオ子ども図書館への寄贈品（衣料品など：新品・中古品[洗濯済]）と寄付金（送料）。事務局まで。

港ユネスコ協会事務局　（火～金　10:30～17:30）

〒105-0004　東京都港区新橋 3-16-3　TEL 03(3434)2300　TEL・FAX 03(3434)2233
Eメール：info@minatounesco.jp　ウェブサイト：http://minato-unesco.jp

■編集後記■　◆先日久しぶりにフルマラソンを完走しました。マラソンを走るのは人生と同じです。完走をすると、仕事や勉強では得られないような達成感が得られます。今後も続けていきたいです。（桐渕泰雄）　◆今年もあわただしく過ぎました。霧中を航海している船中にいるような私たちですが、あまり気をもまずに 2015 年も過ごしたいです。（坂下妥子）　◆最近ユネスコによる日本文化の世界遺産登録が続いている。日本の豊かな文化を再認識する良い機会である。一方、英語教育の視点からも、自国文化への深い理解が英語での発信力の根幹の一つを成すことを忘れてはならない。（須田康司）
◆先日、ディズニーの CG アニメ制作の現場と総指揮に当たってきたラセター監督の歩みを紹介する番組を見た。「トイ・ストーリー」から最近の「アナと雪の女王」まで、次々と世界的なヒットを飛ばしてきた同監督の夢を追いつづける人生と、妥協せずに常に最高の作品を創ろうと切磋琢磨する制作スタフの熱意から元気をもらった。（棚橋征一）　◆男女格差：世界 142 か国のうち日本は 104 位。“世界経済フォーラム”が、政治、職場、教育、健康の 4 分野における男女格差の少なさの指数で決めた総合順位（10 月発表）。日本の女性の政治への参加：129 位、職場への進出：102 位。これまで政治への女性の進出が遅れていたフランスが今年は 16 位に躍進した。それは 1999 年から憲法、法律を変え、大統領が 2012 年「男女同数内閣」を実現させ、国政でも地方議会でも候補者リストの男女比を半々にするよう各政党に義務づけたことで生まれた効果とのこと。日本の「女性の活躍」の実効性を切に願う。（高井光子）